

### ③ 審議機関、委員会の活動

#### ○ 全学教育機構会議

全学教育機構では、一般の学部では教授会に相当とする審議機関として全学教育機構会議を置き、毎月開催しています。専任教員だけでなく、兼務教員も出席し、人事など大学教育学野固有の案件を除きすべての審議に参加してもらっています。

[議長] 栗原和美 (全学教育機構長)

[副議長?] 副機構長 4 名

[出席者] 専任教員〇〇名、兼務教員〇〇名 (平成 30 年〇月時点)

・平成〇年〇月 (第〇回) から、資料の電子配付を開始し、平成〇年〇月 (第〇回) からは、議題の順番を整理し、兼務教員が各自の教授会で伝達されていると考えられる報告事項の際には退出いただくことになった。

・各回の議題等については、別紙資料に示す。

#### ○ 予算・施設委員会

[委員長] ? (副機構長/部門長)、[委員] ???

予算・施設委員会では、(1) 予算配分の原案作成に関する事、(2) 予算要求の原案作成に関する事、(3) 概算要求及び補助金等の申請に関する事、(4) 共通教育棟の施設及び設備に関する事、(5) その他予算・施設に関する事が審議事項となっている。平成 29 年度は、例えば、科学研究費補助金の間接経費の使途などの審議を含め、〇回開催した。

#### ○ 学術委員会

[委員長] 西川陽子 (副機構長/部門長)、[委員]

学術委員会の審議事項は、以下の 5 つであり、平成 29 年度については、特に全学教育機構論集「大学教育研究」および「グローバル教育研究」の企画、発刊を中心に業務を行った。

- (1) 教員の研究及び共同研究・研究プロジェクト等の促進・支援に関する事。
- (2) 研究上の交流及び研究資金の獲得に関する事。
- (3) 研究面に関する情報の収集・発信に関する事。
- (4) 教員の研究論文等の発表に係る企画、編集及び発行に関する事。
- (5) その他大学教育学野の研究活動の促進・支援に関する事。

第 1 回 2017 年 6 月 21 日(水) 16:00~17:00、共通教育棟 1 号館 2F 小会議室

<全学教育機構紀要について>

・前年度までの大京センター紀要、及び留学生センター紀要の内容を確認し、全学教育機構として両者を統一した形のものがないか検討し、機構紀要の中で 2 分野のものを置くことで統一を図ることとした。

・留学生センター紀要を引き継ぐものについては、昨年度と同様に今年度に限り冊子化し (既に今年度冊子化のための予算を確保しているため)、来年度からは全学教育機構全体として電子ジャーナルのみにすることを確認した。電子化後の雑誌登録番号の取得等については、別途調べ青

木委員を中心に検討することとした。

・論文の書式については、これまで大教センター紀要及び留学生センター紀要においてそれぞれ統一されてはならず、違いも大きいため、他学部紀要を参考に全学教育機構の紀要として統一的なものを改めて作成し規定することとした。

<科研費説明会>

・全学教育機構専任教員における科研費説明会の受講機会がなかったため、機構専任教員を対象に6月28日(水)の機構会議前に行うよう、URAに手配することとした。

第2回 2017年7月24日(月) 12:00~13:00、共通教育棟1号館2F 小会議室

<全学教育機構紀要について>

・紀要の名称について、機構長と相談した結果を踏まえ「縁覚教育機構論集」にすることとした。  
・論集の中に、「大学教育研究」と「グローバル教育研究(旧留学生センター紀要を引き継ぐもの)」の2分野を置き、全学教育機構の活動を大学内外に広く知ってもらうこと、また、「大学(高等)教育」の発展に寄与することを目的とした学術研究の場として機能することを本論集の目的として位置づけることを確認した。

・名称、2分野を置くことを含め、「投稿規定(案)」について検討した。更なる修正意見等はメールによる連絡のやり取りにより行い、調整した「投稿規定(案)」、「募集要項(案)」等を資料として、7/26の全学教育機構会議に諮ることとした。

⇒7/26の機構会議では、いくつか修正希望意見が出たが概ね了承された。出された修正要望については委員会での検討に委ねられることが了承されたため、予定通り8/31を投稿申込締切り期限として、機構内で投稿募集をかけることになった。

第3回 2017年8月8日(火) 12:00~13:00、共通教育棟1号館2F 小会議室

<全学教育機構論集について>

・事務方からの論集担当者(学務部 総務:岡野)が決定したことを確認した。また、事務担当者は編集委員会会議には参加せず、事務方には会議結果について連絡するのみとし、執筆者との連絡のやりとり、電子ジャーナリ化作業等のみを行うこととすることを確認した。

・論集編集委員専用のメーリングリスト設定が終了したことを確認した。

・機構会議の意見も含め、以下①~⑦の見直しを行った。更なる修正については、メールでのやり取りにより行い、次回会議までにこれらの最終原稿を完成させることとした。

- ① 茨城大学全学教育機構 大学教育論集投稿規定
- ② H29 論集原稿募集要項
- ③ 論集原稿募執筆申込書
- ④ 原稿整理カード
- ⑤ テンプレート
- ⑥ 原稿作成説明
- ⑦ 自己チェック・シート

第4回 2017年9月5日(火) 13:30~14:30、共通教育棟1号館2F 小会議室

<全学教育機構論集について>

・投稿申込数の確認を行った。申込数があまり多くなかったこと、全学教育機構外の学部教員から募集の有無について問い合わせがあったことから、締切りを 9/20 として再度全学に投稿募集をかけることとした。

・投稿規定をはじめとする前記①～⑦の原稿について、修正調整をした最終のものの確認し、確定した。既に投稿申込している者に対してテンプレートファイル等のファイル一式をメール送信するよう事務方をお願いすることとした。

<全学図書委員について>

・全学の図書委員を全学教育機構（学術委員会）から 1 名出すよう機構長より要請があり、寫田先生を委員として選出することに決定した。（機構長に報告し了承済）

第 5 回 2017 年 9 月 22 日(金)10:00～11:00、共通教育棟 1 号館 2F 小会議室

[委任：野村、寫田]

<全学教育機構論集について>

・第 2 弾投稿申込が終了し、申込者リストを作成し確認した。大学教育研究分野が 21 本、グローバル教育研究分野が 9 本であった。これらのうち、書評が 1 本あったため、書評は論集では対象としないため、申込者に論文への変更ができないか問い合わせ、できない場合は受付不可とすることとした。（野村委員が確認。申込取り下げ） また、申込のあったもののうち 5 本について、題名から大学（高等）教育との関連性が推察不可能だったため、関連性の有無について申込者に確認をとり、関連性があれば申込を受理することとした。（寫田委員、西川委員が確認、全て関連性をつけ執筆することを確認）

・前述申込受理が確認でき次第、第 2 弾申込者に対してテンプレートファイルをはじめ執筆に必要なファイル一式をメール送信するよう、事務方に連絡することとした。

・提出された論文のチェックについては、グローバル教育研究分野の 9 本は青木委員に一任し、大学教育研究分野の 20 本については、次回委員会にて全員出席の場で決定することとした。

第 6 回 2017 年 12 月 11 日（月）16:00～17:00 共通教育棟 1 号館 2 F 小会議室

出席者：青木、寫田、野村、山崎、西川

<論集編集スケジュール>

(1) 大学教育研究分野の原稿締め切りが 12/8 であり、最終提出論文について確認を行い、総数内訳は別紙資料 1 の通りであることを確認した。なお金先生の完成原稿は 12/12(火)に送れるとの連絡があり、委員に諮り受け付けることが了承された。

(2) 今後の論集完成までのスケジュールについて、編集作業をどこまで誰がやるか、業者にどこまで求めるかなど話し合い、別紙資料 2 の通り決定した。

(3) 論集全体の表紙奥付含む大学教育研究分野のページ構成について検討し、別紙資料 3 のページ割りに決定した。これをもとに印刷業者複数に見積もりをお願いし、依頼する業者を選定することとした。なお、以下のことについても確認された。

・表紙は大教センター紀要で使用していたローズブルムラを継承する。

・巻頭挨拶を木村機構長にお願いし、12 月中に岡野さんへ提出いただく。

・各論文全て奇数始まりとし、前論文が奇数で終わっていた場合にはその語に続く偶数ページは

空きとする。

・ヘッダー、フッター、タイトルデザインは原稿規定を鑑み、業者と相談し決定する。

(4) 業者選定

H29年度教育学部紀要の場合では、茨城印刷に依頼し1,000/頁（pdf 原稿化、2回校正、全て含む）とのことで、現在予算ギリギリの見込みだが、これを参考に業者選定を岡野、西川、寫田で行うこととした。

(5) 大学教育研究分野の原稿チェック担当を別紙資料1のように決定した。執筆要項に従い、チェックを行い、12/22までに岡野に提出、もしくは直接著者とやり取りを行うこととした。岡野提出分については、12/25～岡野より執筆者にチェック済原稿が返却され、1/5（16:00 締切り）に修正原稿を岡野に提出することに決定した。

(6) グローバル教育研究分野の現在の原稿の編集の進捗状況について青木委員から報告がされた。3月の図書館アップの際に全体を pdf 化したファイルを岡野に提出してもらうことを確認した。

<その他>

(1) 寫田委員より購読雑誌の厳選等、全学図書委員会の報告がされた。全学教育機構教員においては、大きく影響はない見込みであることが各委員からの情報により確認された。

(2) 次回委員会は業者選定の状況により、メールにて連絡することとした。

## ○ 点検評価委員会

第1回点検評価委員会議事メモ

日時 平成29年8月28日（木） 11:50～12:40

場所 共通教育棟第2会議室

出席者 栗原和美（委員長）、寫田敏行、小西康文、佐藤伸也、小磯重隆、池田庸子

陪席者 三浦学務課課長補佐

[議事概要]

審議事項

1. 点検評価委員会の具体的な業務内容について

委員長より、全学教育機構点検評価委員会内規について説明があり、審議事項の確認がなされた。

具体的には、第2条における(1)中期目標・剣客及び年度計画の点検・評価、(2)機構、各部門・部会の活動の調査及び点検・評価、(3)専任教員の教育、研究、地域貢献活動、運営業務等の調査及び点検・評価、(4)機構の活動報告の企画、編集及び発行、(5)その他機構における点検評価について確認した。

なお、(4)に関連して、年報について今後検討することとした。

今回、小西委員から、平成28年度後学期教養科目の教員自己点検結果について、本委員会で審議願い旨の要請があり、上記の(5)に該当するものとして審議を行うことになった。

2. 平成28年度教員の自己点検結果の対応及び公開について

小西委員から、平成 28 年度教員の自己点検結果の報告があり、特に、自由記述において、公開に際し、教員に確認が必要となる案件が1件あった。本件については、機構長、副機構長(共通教育)に、確認をお願いし、その後、公開することとなった。

3. 全学統一授業アンケート実施までの基盤・教養教育に対する授業アンケートの集計方法と今後の日程について

小西委員から、上記について説明があり、承認された。

### 第2回点検評価委員会議事録

日時 平成 29 年 10 月 10 日(火) 13:30~15:00

場所 共通教育棟 1 号館 3 階 第二会議室

出席者 栗原和美 (委員長), 畠田敏行, 小西康文, 佐藤伸也, 池田庸子

陪席者 三浦範昭, 奈良橋敏郎

#### 審議事項

1. 栗原委員長から、平成 29 年度第 1 回点検評価委員会議事メモ(案)が配布され、説明があった。会議後に一箇所誤字が発見されたため、訂正が必要となる。
2. 小西委員から、平成 29 年度前学期学生アンケートの自由記述において、本委員会で審議が必要となる案件が 14 件あると報告があった。その内の 7 件に関しては副機構長(共通教育)に確認をお願いし、この 7 件の内の 3 件に関しては副機構長(共通教育)から適切なお対応をしていただくようお願いすることとなった。その他にも、担当教員へコメントを送付する際に注意書きを添える等、事務的な必要となる案件が 3 件あった。
3. 今後のスケジュールとして、佐藤委員に各担当教員へ配布する平成 29 年度前学期学生アンケートの集計の依頼があり、承認された。

### 第3回点検評価委員会議事録

日時 平成 29 年 11 月 21 日(火) 15:30~17:30

場所 共通教育棟 1 号館 3 階 第二会議室

出席者 栗原和美 (委員長), 池田庸子, 小磯重隆, 小西康文, 佐藤伸也, 畠田敏行

陪席者 三浦範昭, 奈良橋敏郎

#### 審議事項

##### 1. 議事録作成の担当者について

小西委員から、議事録作成担当者を委員の持ち回りとした旨提案され、提案のとおり承認された。

##### 2. 平成 29 年度前学期教員自己点検評価の対応および公開について

小西委員から、平成 29 年度前学期教員自己点検評価アンケートの自由記述および意見において、本委員会で審議が必要となる案件が 29 件あると報告があった。その内の自己点検表記載の誤植に対しての 2 件に関しては、ウェブ版をすみやかに修正することで対応することとなった。担当教員へコメントを確認することが必要な案件が 1 件あり、確認後に公開することになった。「木 3 と同様」というようにして他科目のコメントを参照している案件が 1 件あり、アンケート集計

時に参照先のコメントへ入れ替えることで対応することとなった。アンケート項目や実施方法に対する 7 件に関しては、副機構長（共通教育）に確認をお願いすることとなった。また、各部門で協議が必要と思われる 9 件に関しては、各部門長に報告をすることとなった。その他、設備に関する回答を行う等、事務的な対応が必要となる案件が 10 件あった。

### 3. 共通教育部門 FD のための資料提供について

共通教育部門 FD のための資料として、学生アンケートおよび教員自己点検の集計結果、GPA やクラス満足度等の部門ごとの科目ランキング表、旧大教センターにて取りまとめていたアンケート実施報告書を提供することが承認された。なお、資料作成に用いるデータに関しては本日付のものとする事となった。

### 4. その他

点検評価委員会の業務内容に関する質疑応答があり、具体的な業務内容に関しては今後検討することとした。

## ○ 人事委員会

・人事委員会では、以下の項目を担当している。内容については掲載しない。

- (1) 教員の採用及び昇進等に関する事。
- (2) 教員の転任、退職及び休職等に関する事。
- (3) 茨城大学名誉教授の称号授与に関する事。
- (4) 領域長及び評議員の選出に関する事。
- (5) その他教員の人事に関する事

## ○ 全学教育機構 web サイト開設準備タスクフォース

全学教育機構の web サイト設置に向け、平成 29 年〇月の第〇回の全学教育機構会議において TF を設置した。

〔座長〕 寫田敏行（総合教育企画部門）

〔委員〕 佐藤伸也（共通教育部門）、矢嶋敬紘（学生支援部門）、瀬尾匡輝（国際教育部門）、塚田純（国際教育部門）、三浦範昭（学務部学務課）、山崎一希（広報室）

・平成 29 年度中は、会議を 3 回開催した（うち 2 回はメール会議）。各回の議事概要は以下のとおりである。

全学教育機構 web サイト開設準備 TF 第 1 回会合議事概要

開催日時 平成 30 年 1 月 15 日（月）10：20－11：30

会場 共通教育棟 1 号館 2 階 小会議室

出席者（全員）

議論の概要

○ メンバーの自己紹介を行い、座長を互選により選出した（総合教育企画部門・寫田）。

○ 各部門（センター）および広報室から茨城大学公式サイトへの更新計画について報告を行った。

総合教育企画部門：広報したい活動⇔AP 事業の活動でもあるため、AP 事業 web サイトを構築中。年度内に公開開始予定。

共通教育部門：旧大学教育センターweb サイトを運用中。部門・センターの web サイトとしてリニューアルするか、機構 web サイトの中に入れ込む形にするか、部門で検討したい。

学生支援部門：キャリア関係は web サイト運用中。学生支援関係も年度内に運用開始予定。

国際教育部門：現在もグローバル教育センターとして web サイトは運用中だが、年度内にリニューアル予定で作業進行中。

広報室（全学 web サイト）：創立 70 周年を目処にリニューアル計画を進行中

○ 議論の中で出た主な意見は以下のとおりである。

・例えば、教員のリストなどを大学の web サイトに掲載する計画もあり、ここ 1、2 年で検討が進められるので、当面は各部門・センターで小回りを効かせる感じでの情報発信を行うことを基本とすべきではないか。

・全学教育機構の web サイトについては、全学と各部門・センターを補完する形で設計し、なるべく更新の頻度が高くないよう（メンテナンスフリー）にする方向ではどうか。

・全学教育機構の各部門は全学的な業務が多いため、単に機構の web サイトを作る作らない、という話だけでなく広報室との連絡を密に取りながら、どこにどのようなコンテンツを配置すべきなのか、ということは今後、考えて行かなくてはならないのではないかと。

○ このような議論を受け、以下のような方針で当面、検討および作業を進めることとした。

・1 月末までに座長のほうで、全学教育機構 web サイトに掲載することが考えられるコンテンツについて案を作り、各メンバーから意見をもらうこととした。

・2 月上旬に会合を開き、年度内の運用開始を目指すのか、もう少し時間的余裕を持たせつつ検討を進めるのかの判断を行うこととした。

・次回会合までに、web サイトの運用、リニューアルを進めている部門・センターは、その概要を共有いただき、構築の検討を行っているところはその方針を示してもらうこととした。

・web サイトの URL に使用するサブドメイン名（www. xxx. ibaraki. ac. jp の xxx の部分）については、案を TF で絞り込み、機構会議において各構成員から意見をうかがうのではどうか、ということによって調整を進めることとした。

メール審議でサブドメイン案を策定し、2 月 21 日に機構長に報告の上、○月○日の全学教育機構会議に以下のように報告し、了承いただいた。

全学教育機構 web サイト開設準備 TF 第 2 回会合議事概要

[期間] 平成 30 年 2 月 16 日から 2 月 21 日

・第 2 回については、全学教育機構のサブドメイン名の案の策定

全学教育機構のサブドメイン名について

全学教育機構 web サイト検討タスクフォースにおいて協議を行った結果、「Liberal Arts Education」の頭文字を取って、「lae」を全学教育機構のサブドメイン名としたいと思います。現在構築中の全学教育機構の web サイトの URL は

www.lae.ibaraki.ac.jp

となります。

<参考>

www.hum.ibaraki.ac.jp (人文社会科学部)

www.edu.ibaraki.ac.jp (教育学部)

www.sci.ibaraki.ac.jp (理学部)

www.eng.ibaraki.ac.jp (工学部)

www.agr.ibaraki.ac.jp (農学部)

-----  
(参考) TF メンバーによる投票結果

2 票

www.liberal-arts.ibaraki.ac.jp

www.lae.ibaraki.ac.jp

1 票

www.ilae.ibaraki.ac.jp

0 票

www.zkk.ibaraki.ac.jp ※3 文字の場合

同数票となったのと、票が割れていたため、TF 座長である畠田が栗原機構長で協議させていただき、他学部と合わせることで提案したいと思います。

全学教育機構 web サイト開設準備 TF 第 3 回会合議事概要

[期間] 平成 30 年 2 月 22 日から 3 月 28 日

[メール審議]

- ・投票結果などもとに、全学教育機構会議に報告する案をとりまとめた。

全学教育機構のサブドメイン名および web サイト構築の進捗状況について (報告)

今年度の全学教育機構 web サイト開設準備タスクフォースの活動状況について報告させていた



できます。

1. 全学教育機構 web サイト開設の見通しについて

- ・今年度については、各部門（センター）の状況把握、全学の web サイトのリニューアル計画などの情報収集を中心に活動を行いました。（会議 1 回 [1/15]、メール会議 1 回）
- ・全学教育機構の web サイトについては、先行して運用を開始もしくは開始予定の部門（センター）と調整しつつ、平成 30 年度内での開設を行うべく作業を行う予定です（大学に予算要求を実施）。

2. サブドメイン名の設定について

- ・全学教育機構の web サイトの開設前に、サブドメイン（インターネット上で全学教育機構を示す文字列）については、グローバル教育センターのサイトリニューアル、学生支援センターのサイト新設に備え設定する必要があったため、メール会議で案を募り栗原機構長に提案しました。2 月 22 日の全学教育機構の執行部会議で承認をいただき、各センターでの作業を進めてもらいました。

サブドメイン名：lae（全学教育機構の英語名称、Institute for Liberal Arts Education より）

[他部局の例 hum→人文社会科学部、edu→教育学部、sci→理学部、eng→工学部、agr→農学部]

インターネット上での使用例：

<http://xxx.lae.ibaraki.ac.jp>

のように用います。xxx の部分には、各部門/センターを識別する文字列が入ります。

例)

cge.lae.ibaraki.ac.jp : グローバル教育センター

ssc.lae.ibaraki.ac.jp : 学生支援センター

(※文字列では一体化されていますが、管理はそれぞれに行っていただいております。)

開設予定の全学教育機構 web サイトは、[www.lae.ibaraki.ac.jp](http://www.lae.ibaraki.ac.jp)、となる予定です。